

第2回 石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ 議事要旨

日 時：平成26年3月24日（月）14:00～16:00

場 所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」3階会議室

出席者：矢部座長、浅野氏、折谷氏、川村氏、小林氏、鈴木氏、永田氏、錦織氏、濱田氏、伊藤氏、矢部氏、松田氏、岡部氏、佐々木氏（以上14名）

（伊藤氏）

過去の主な洪水でどこまで水が浸かったのか、また、洪水に伴って堆積する土砂に関してコケ類がどの程度耐性を持っているのでしょうか。

（岡部氏）

再生しようとしている高水敷は非常に高い位置にあり、石狩川で既往最大の昭和56年の洪水でも、この再生する場所は水がついていません。夕張シューパロダムが来年度完成、供用しますので、さらに洪水はつきにくくなると考えています。昔堤防がなかった頃のボグがあった時よりも、冠水頻度は少なくなるのではないかと思います。

（矢部座長）

私は平岡公園でボグを作ろうとしてきましたが、毎年熱帯低気圧の影響で夏に川が氾濫して冠水します。イボミズゴケは氾濫で消えてしまいましたが、オオミズゴケは一時的な冠水で腐ってもまた復元し、現在はそれがどんどん増えている状態になっています。洪水が来てもミズゴケ属は全滅していません。

洪水でミズゴケ群落が壊滅してしまうことがあっても、順応的管理で目標をフェンに変えるなどの対応も可能ではないかと思います。このような良い条件のところでボグを復元することは、ここでしか出来ないことです。多少リスクはあってもやってみる価値はあると思います。

（永田氏）

夕張シューパロダムが出来て放水量が減ることで、乾燥害に関してはどのようになる見込みでしょうか。

（岡部氏）

夕張シューパロダムができると、平常時も渇水になりにくくなるように水を放流しますので、今よりも川の水位が下がりにくくなります。また、我々の試算では、ここは雨水で涵養されているのではないかと考えておりますので、洪水が少なくなることで乾燥しやすくなるということはないと思います。

これからデータを取っていかなければならないと思いますので、ワークショップにも諮りながら進めていきたいと思います。

（矢部座長）

図2-1にありますように、川側に斜めに遮水シートを入れます。この遮水シートは下のシルト層まで入れますから、満タンの洗面器状態で雨水を溜めるような状態になりま

す。また、この辺の降水量と蒸発散量の差である余剰降水量を使ってここを雨だけで湿润化しようという計画です。

(永田氏)

河川に沿っている方だけではなく、手前と奥も仕切るのでしょうか。

(岡部氏)

いろいろ解析し、どのくらい影響があるのかを見ながら設計していきたいと思います。

(松田氏)

場合によっては順応的な対応も考えていくこともあるかもしれないというお話でした。予想していた状態よりも環境が変わって、目指していた方向になりにくいとき、あるいは、目標の状態になるのだけれど非常に長い時間がかかってしまうときに、どこまで人為的に手を入れていくかというイメージはあるのでしょうか。

(矢部座長)

基本的には樹林化を避けたいので、最初入ってくることはやむを得ないのですが、大きくなる前に除伐していかなければならないでしょう。もう一つは、ヨシが入るのは避けたいので、積極的に切って取り除いていかなければならないかもしれません。

(松田氏)

その手を入れる判断、具体の作業に取り掛かるのは、事務局と先生との間で確認していただく形になるのでしょうか。

(矢部座長)

重要なものについては、ワークショップの皆さんに情報を提供し、意見をお聞きしなければなりません。

(岡部氏)

ワークショップは年に1回は必ず開きますので、問題が顕在化してくれば、情報を提供しながらお諮りして、ご助言いただきながらやっていくことになると思います。

(矢部座長)

初期にまずい群落状況が発生しても、何年かすると治まってしまう可能性もあります。平岡公園でも初年度にイヌビエが多く発生したのですが、2年目にほとんど無くなってしまいました。群落が安定するまではかなり変動すると思います。

(鈴木氏)

段差のところは保全が急務だと書かれているとおり、結構心配な乾燥状態ではないかと思っています。現地では溝に土嚢を積んで水を溜めています。他に乾燥化を防ぐ手立てはないのでしょうか。あるいは2年くらいは大丈夫かなど、意見をお聞きしたいです。

(矢部座長)

積極的に排水するための溝は、今埋めています。今泥炭の表面が乾燥によって収縮して固まっている部分が5cm程度ありますが、これが2年くらいの間に深さ1mとかそれほ

どに達することは起こりにくいと思います。いずれ洗面器のように水を溜めたら、表面の劣化してしまった泥炭を外来種と一緒に剥がす計画を考えています。そうすると、泥炭がとても柔らかくなってしまい、人間が入ると泥炭を壊してしまうと思いますので、動線を作って泥炭を保全しながら調査することになると思います。劣化を食い止める方法は水位を堰上げる以外には無いので、できるだけ早くそれをするしか解決策は無い気がします。

(矢部座長)

14 ページでそれぞれの事業体が今後どういう形で活動していくかを一覧表にする作業がございませう。

札幌市立大学では基本的に、ここの 7ha の湿原の植生デザインを考えてアドバイスしていきたいと思います。具体的には、湿原再生プロセスのどこで何を行うかというタイミングを見極めます。また、pH や EC、水質や水分の状況を見ながら、どうゾーニングして、どのような植物を入れていくかなどについて平面的な環境分布を考えながら、適切な対応を提案したいと思います。

(永田氏)

北海道農業研究センターでは、地下水位の変化が泥炭、有機物の分解や温室効果ガスの動態へどのような影響を及ぼすかなどを評価することができると思います。

(浅野氏)

南幌町の教育委員会です。住民を対象とした自然環境をテーマとした学習会、セミナーの開催が考えられます。それと、地域との連携ということもありまして、再生されれば植生を利用するための調査のようなことを住民とともに実施する可能性が考えられます。

(川村氏)

南幌町です。事業についてホームページなどを通じて町内外の多くの方に情報提供をしたいと考えております。それと、郷土史研究会さんやふらっと南幌さんなどと情報公開をしながらできることを支援していきたいと思います。

(折谷氏)

空知総合振興局です。事業の取り組み、活動などをホームページなどで紹介していきたいと思います。その後取り組みの状況を踏まえながら、観光資源のような地域振興について改めて検討していきたいと思います。

(小林氏)

郷土史研究会です。このようなことを一緒に勉強したいという考えもありますし、広く町内への情報提供に取り組みたいと思います。もちろん濱田さんとも一緒にやっていきたいと思います。

(鈴木氏)

雪印種苗です。林業試験場さんと一緒にやっている湿生植物の増殖の技術開発を進めていきます。植物群落も見つけないかと思っています。また、小学校やふらっと南幌さんと一

緒に、環境教育をしながら苗づくり活動をして育った苗を試験値に植えていくといった取り組みをしていきたいと思います。

(濱田氏)

地元の活動団体として、定期的に記録を取ったり、生育状態を観察することが考えられ、日常的な活動として取り組めれば専門の皆様への情報提供になると思っています。また、自然観察会や環境学習、現場での運営やサポートを専門家からのご指示に従って担うことができればと思います。それから、私達の NPO の特徴としてフットパスに力を入れているので、町内外の方と一緒に現地の生育状況を観察や、体験型の情報提供、情報発信をできればと思います。さらに、ホロムイイチゴやホロムイリンドウの加工・商品化・販売を行っていくことも模索しております。

(錦織氏)

林業試験場です。湿生植物の苗に関する技術を、これまでの蓄積を合わせて進めたいと思います。また、湿原植生についての情報の提供も行いたいと思います。

(矢部氏)

寒地土木研究所です。札幌開建と連携協力してデータ収集等を行い、主に水文環境について、試験施工やモニタリングの方法などを評価していきたいと考えています。

(松田氏)

同じく寒地土木研究所です。地域イメージ、地域の風景の捉え方、あるいは地域の南幌の景観の理解の仕方、実際に環境が変わっていくことがどういう風に影響するか、景観の評価をしていきたいと思います。その際は、地域の方々にインタビューなどを行い、南幌町の教育委員会や濱田さん、開発建設部、矢部先生にもご協力を得ながら、検討していきたいと思います。

(岡部氏)

札幌開発建設部では、ワークショップで知見を頂きながら基盤整備を進めていきたいと思っています。また、水位などのモニタリングを行い、情報を皆さんに提供したいと思います。移植につきましても、皆さんや地域のご協力を頂きながらやっていきたいと思っています。

(矢部座長)

今日の議論を整理した上で、事務局で自然再生実施計画書へ反映をお願いします。また、活動内容一覧表の完成をお願いします。この後、追加や修正につきましては、ご意見をいただいた皆さんに相談をしながら、事務局と私でとりまとめていきたいと思っています。

以上